同人の句集紹介

菊池　きい・奥山　游悦　共著

親子合同句集

折り鶴

卒寿と古稀を迎えた親子の合同句集である。

「東日本大震災」を詠んだ二人の章がある。

菊池きい近詠

大地震毛布被りて中庭に

余震なほ毛布くるまり身震し

被災地の高台梅のちらほらと

被災地の復興祈り梅香る

幸ひを運んでくれよと燕折る

（注・「燕」は折り紙）

奥山游悦近詠

干潟見て津波を思ふ齢かな

（これは、偶然大震災発生の一月前に句作して俳誌「桜草」に投句したもの）

陽炎や流れし家のまぼろしか

三陸の孤島に残る風車

世の末はかくの如きか三月に

底知れぬ地震のゆらぎに春の雪

津波去り人家も去りて余花残花

島帰る地震の日本を忘れまじ

地震の傷癒えて迎へし蛍の夜

菊池さんは宮城県角田市で教師職を終えて、同市に住み、震災を体験。奥山さんは宮城県石巻市出身、チリ地震津波が襲った北上川に遭遇した経験者。

卒寿の母・菊池さんは七十四歳で始めて句歴二十六年。『櫻草』の誌友で、折り紙師範の実力者。すでに今回の句集名と同じ「おりづる」と題する句集一冊を出している。

古稀の娘婿である奥山さんは東京文京区に住む、東北大鬼城句会のメンバー。永らく法曹界（裁判官）にあって、今秋に瑞宝重光章の叙勲に輝いた弁護士。俳句の道を歩みだして数年（?）とか。持ち前の旺盛な向上心からか、急速な上達振りをみせる有望株で、九月に『櫻草』同人になったばかりだ。

この句集には菊池さんの前句集からの再掲載もあり、NHK全国俳句大会入選句（廃校になりし母校や帰り花）など三句もあり、同全国大会短歌入選歌も再掲してある。

奥山さんの作品は『櫻草』紙上から再掲もあるが、イタリア、スイス、フランスなど海外詠も独立した章立てにするほどに豊富である。

発行は八月末、発行者は奥山博子さんである。博子さんは奥山夫人で、菊池さんの子女である。そして、お孫さんもひ孫さんも菊池さんを激励する寄せ書きもある。四世代が何らかの作品を載せた大合同集。誠に羨ましい限りの、強い絆で結ばれた一族の生活が垣間見られる。

鬼城句会の松本貞風さんが発刊の祝辞を寄せ「日本の空が大好き鯉のぼり」を絶賛している。

筆者（坂口）はこれまで、実に多くの書評を仕事のひとつとしてこなしてきた。しかし親子共著の書を紹介するのは初めての経験である。（坂口青郎　記）